外国語学部学生のコミュニケーション能力

Communication Skills of Foreign Language Students

長谷川 信，吉田 和央
Makoto HASEGAWA, Kazuo YOSHIDA
岐阜聖徳学園大学外国語学部
Faculty of Foreign Languages, Gifu Shotoku Gakuen University
Email: m.hasegawa@gifu.shotoku.ac.jp

あらまし：英語によるコミュニケーションを通して英語を学ぶ機会は多いが，初級レベルの学習者には，英語コミュニケーションへの不安等から積極的に会話に参加ができずにいる．これらの中には，コミュニケーションを不得手とする学生もいるために，コミュニケーション能力を評価して，日本語によるコミュニケーション能力を高める支援をすることで，英語コミュニケーションへの参加も促す．本稿では，コミュニケーション能力評価のアンケートと TOEIC IP テストにより，コミュニケーション能力と英語能力の関係を明らかにする．
キーワード：英語学習，コミュニケーション能力，TOEIC

1. はじめに

政府主導の「グローバル人材育成」が進む中で[1]，各大学でも英語教育に力を入れており，ネイティブ教員を増員し，All English の授業も拡大させるなど，特色ある教育課程を編成している[2]．英語専攻系の学科も人気で，多くの学生が入学するが，英語能力には差があるため，多くの大学ではレベル別の少人数クラスを編成して，対話型授業を実施している．また，英語能力を底上げするために，授業以外の環境をキャンパス内外で整備するなどの取り組み（例えば，語学ラウンジ，留学生の受け入れ，留学生との共同生活寮など）がみられる．いずれも，英語によるコミュニケーションの機会を増やすことで，英語能力の向上を目指している．しかし，初級クラスの学習者にとって英語でコミュニケーションを取ることは容易でなく，心理的不安や性格要因などが影響してコミュニケーション学習への課題も多い[3][4][5]．

そこで，学生にはコミュニケーション能力を高める支援から始め，次のステップで英語コミュニケーションによる英語学習に進むことで，英語を得意としない学生へ学習効果を高めることを検討する．本論文では，アンケート評価により，学生のコミュニケーション能力と英語能力の関係を明らかにする．

2. 調査方法

地方私立大学の外国語学部外国語学科 1 年生を対象に，コミュニケーション能力の評価アンケートを 2019 年 10 月に実施した．学生は入学時に TOEIC IP を受験しており，得点別に 8 段階にクラス分けされている．ここでは，8 クラスを順番に 2 クラス 1 組に再編成した組み合わせで集計している．

コミュニケーション能力の評価アンケートは，平尾(*3)のアンケートを用いて，132 名の回答を得た．アンケート調査票では，コミュニケーション能力を 5 つ力（聴く力，観る力，感じる力，質問する力，伝える力）に分解しており，各 5 問の合計 25 問に，あてはまる：2 点，ややあてはまる：1 点，あてはまらない：0 点，無回答：0 点で回答・集計する．ここでは，5 つのコミュニケーション能力の得点合計をその個人の総合得点(50 点満点)として扱う．

表 1 アンケート人数と TOEIC クラス

クラス	回答人数	TOEIC 得点
A 組	29	高
B 組	36	↑
C 組	35	↓
D 組	32	低
合計	132	

3. 結果

コミュニケーション能力の評価アンケートの得点は，図 1 に示す分布となり，平均点は 22.5 点となった．今回のアンケートによる，5 つの力の相関係数を表 2 に示す．いずれも正の相関を示しており，聴く力と観る力，観る力と感じる力の相関が高く，聴く力と感じる力，観る力と質問する力の相関が低い特徴が見られた．

表 2 5 つの力の相関係数

	聴く力	観る力	感じる力	質問する力	伝える力
聴く力	1.0000				
見る力	0.7790	1.0000			
感じる力	0.3981	0.7551	1.0000		
質問する力	0.5122	0.4375	0.6625	1.0000	
伝える力	0.5966	0.7087	0.5968	0.6356	1.0000

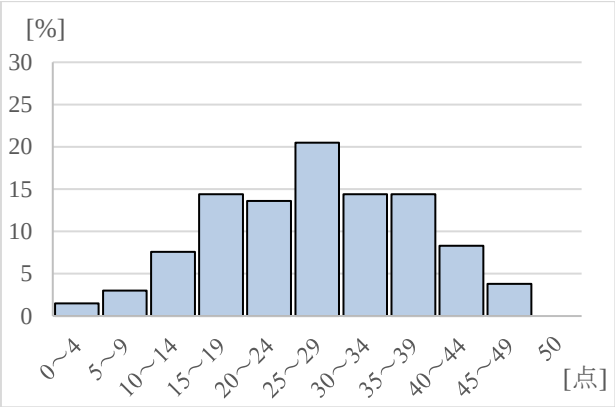

図 1 コミュニケーション能力の得点分布(全体)

各クラスのコミュニケーション能力評価の平均得点を図 2 に示す. 概ね TOEIC IP の高得点クラスが，コミュニケーション能力評価においても高い平均点を得た．また，上位 2 クラスと，下位 2 クラスではコミュニケーション能力評価において，常に上位・下位の関係が見られた．

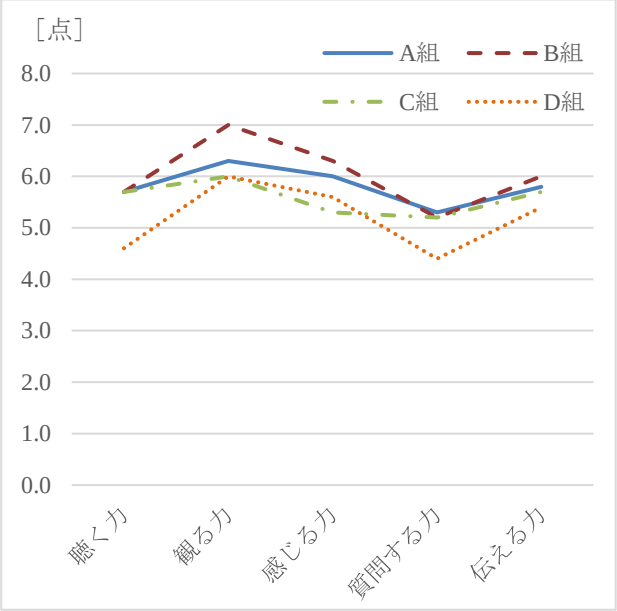

図 2 クラス別コミュニケーション能力得点

4. 考察

TOEIC IP でクラス分けした，英語能力の上位グループでは，コミュニケーション能力の評価においても高い得点となり，英語能力の下位グループでは，コミュニケーション能力においても低い得点となった．

大学受験においては，自学自習が主となり英語によるコミュニケーション学習は少なくないが，高校の授業などにおいては積極的に英語コミュニケーションの学習が取り入れられている傾向があり，高校までの生活におけるコミュニケーション活動の得手不得手が，そういった授業方法から得られる学習効果に差をもたらしたとも考えられる．一方で，今回のアンケート調査では, 約 30 規模のクラス単位で評価したが，今後の学習支援とその評価のためには，個人別のコミュニケーション評価を明らかにして，継続的にコミュニケーション学習や英語学習の効果を計測する必要がある．

5. まとめ

コミュニケーション能力は，社会から求められる力であるが，学生の身についておらず，企業側の評価と学生自身の評価にギャップがある能力である [(7)]. 就職が近づくと学生たちも意識しはじめて，積極的にコミュニケーションを取ろうとする様子が伺える. 一方で，英語学習における英語コミュニケーションは，授業の一部として捉えられ，初心者クラスで英語学習に目的意識を持たない学生に，十分な効果が得られているとは言い難い．今後は，初年次から実施されている，コミュニケーション能力を高める授業や学習支援を活用して，英語コミュニケーション学習への意識や効果を評価していく予定である．

参考文献

(1) 吉田文:“「グローバル人材の育成」と日本の大学教育? 議論のローカリズムをめぐって”, 教育学研究, 81 巻, 2 号, pp.164-175 （2014）
(2) 古家聡，櫻井千佳子:“日本の大学における英語教育の役割：教養教育の観点から”, The Basis, Vol.3, pp.5-19 （2013）
(3) 大場浩正:“協同学習に基づく英語コミュニケーション活動が英語学習意欲や態度に及ぼす影響 ：テキストマイニングによる分析”，上越教育大学研究紀要, Vol.34, pp.177-186 （2015）
(4) 野口朋香:“英語学習における不安とコミュニケーション能力 ：不安軽減のための教室環境づくりへの提言”，外国語教育メディア学会機関誌, Vol.43, pp.57-76 （2006）
(5) Maclntyre, P.D., & Charos, C.:“Personality, attitudes, and affects as predictors of second language communication”, Journal of Language and Social Psychology, Vol.15, pp.3−26 （1996）
(6) 平尾元彦，重松政徳:“大学生のコミュニケーション能力とキャリア意識”，大学教育，Vol.4，pp.111-121 （2010）
(7) 経済産業省:“大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査”（2010）